

2025 3/11

No.2230

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



京急の三浦海岸駅（三浦市）から小松ヶ池公園までの約1^キに植えられている約1000本の河津桜が見頃になり、1、2日、多くの観光客でにぎわった。今月下旬にはソメイヨシノの開花前線もやってきそう。



contents

視点描	
あの日を気づきを明日に	3
講演録	
フェリス女学院大学の現在と未来 ～研究者から学長となって～ フェリス女学院大学学長 小檜山 ルイ	4
特集	
USスチール買収「投資」曖昧なまま頓挫状態 禁止は選挙向け密約か 米経済・雇用にマイナスも	8
政治双眼鏡	
戦術ミスで野党共闘が空回り 有権者のため「与党漁夫の利」回避を	12
経済双眼鏡	
「ガザ・リゾート構想」 トランプ氏のたくらみを読み解く	13
かながわTODAY	
2月の主な経済ニュース	14

事務局だより

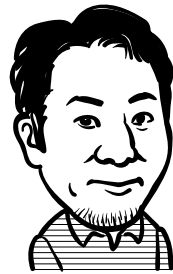
◇2025年4月定例講演会
4月10日(木)午後1時30分～3時
横浜ベイシェラトン ホテル&
タワーズ(横浜駅西口)
講師：ディー・エヌ・エー代表
取締役会長・
南場 智子氏
演題：DeNAの挑戦
ースポーツ、神奈川、AIー

◇2025年5月定例講演会
5月7日(水)午後1時30分～3時
メルヴェーユ(桜木町・県民共
済プラザビル内)
講師：有隣堂代表取締役社長・
松信 健太郎氏

◇2025年6月定例講演会
6月19日(木)午後1時50分～3時
ロイヤルホールヨコハマ(中
区山下町)
講師：ライター・コラムニスト
稲田 豊史氏
※1時30分から同会場で当会
決算総会を開催する予定です。

【お知らせ】 神奈川政経懇話会では、会報「政経かながわ」に会員企業の新商品の紹介、地域貢献活動、人事などジャンルを問わずさまざまな会員情報を掲載しています。掲載の問い合わせなどは事務局 ☎045 (226) 2121。

視点 点描



あの日の気付きを明日に

ビジョンはやがて、東北の沿岸部に押し寄せた津波の映像に切り替わった。

14年前の「あの日」。横浜で震度5強を観測し、県内でも5人が犠牲になった東日本大震災。経験

したことのない巨大地震は、一瞬にして都市機能をまひさせた。

外壁や看板がはがれ落ち、倒壊

した建物。天井が崩れ、商品が散乱した店内。縦横無尽に亀裂が走り、液状化でゆがんだ道路。交通網が遮断され、駅や施設にあふれた帰宅困難者…。

浸水被害は免れたものの、スー

パーの棚からは食料や日用品が消え、3週間余りの計画停電が市民生活を直撃した。原発事故による空間放射線量の測定結果や突然鳴り響く緊急地震速報も混乱に拍車を懸けた。

恐怖と不安におののき、社会を覆う絶望感に打ちひしがれた

日々。家族を奪われた被災者の姿に言葉を失い、故郷を追われた避難者に思いを寄せた日々。深く刻まれた被災の記憶は、3・11が近づいたたびに思い出す。

ただ、「思い出す」とは、忘れていた裏返しでもある。14年の歳月が当時の衝撃さえ過去の出来事に置き換えていないか。この間、熊本や能登半島の地震をはじめ豪雨災害、記録的猛暑、新型コロナウイルスも経験した。幾多の危機に直面して得た気付きと、そこで変わった価値観を今につなげられているだろうか。

生きる意味とは、本当の幸せとは、持続可能な社会とは…。節目の日にこそ、あらためて問い直したい。歓声が戻り歓喜に沸くハマスタの光景に、明日への希望を重ねながら。

(神奈川県新聞社地域報道統括部長

香川 直幹)

「反省点はあるけど、特に違和感なく投げられた」

横浜スタジアムのプロ野球・

オープン戦。気鋭の右腕は、ヤクルトの新外国人選手に2ラン本塁打を浴びても、開幕投手への手応えを口にしていた。

春陽が照らすマウンドに五回まで立ったのは、ベ이스ターズ現監督の三浦大輔投手。平日午後1時

開始の試合ながら、スタンドには

3700人余りが詰めかけていた。空気が一転したのは、七回の攻撃が始まる直前だった。

スタンドがガタガタと音を立てて波打ち、照明や近くのビルがぐらぐら揺れる。地響きのようなごう音と激しい揺れ。観客から悲鳴

が上がり、選手がグラウンドに飛び出す。バックスクリーンの大型